

世の中は変わっていく。その流れを進める人、立ち止まって新たな道を模索する人…。自分が信じる明るい未来へ向かって、扉を開く。そんな人々の決断と行動に目を凝らし、伝えていきたい。

かわる。かえる。

「これが何度もの挫折を経て75歳になったおやじの最後の挑戦、パンガスリミです」。高知県黒潮町の自宅の車庫を改造した小さな工場で、明神宏幸(75)が箱の中から真っ白に凍った魚のすり身の板を取り出した。原産国はベトナム、箱には緑の魚をデザインしたエコラベルが付いていた。ラベルは、国際機関の水産養殖管理協議会(ASC)が、環境や資源管理に配慮したと認めた養殖業だけに与えるお墨付きだ。カツオの一本釣り漁業に長くかわり「乱獲で魚がどんどん減っている」と危機感を募らせる明神の強いこだわりだ。

明神は、別の国際機関の海洋管理協議会(MSC)の認証を2009年にカツオ漁では世界で初めて取得したことで知られる。乱獲のない持続可能な漁業と認められ、海のエコラベルを付けて売れるようになった。

当時、拠点にしていた静岡県焼津市で、商社の担当者との契約を交わした直後だ。地面が激しく揺れた。11年3月11日。テレビは気仙沼市を襲った巨大津波が漁船を押し流す情景を伝え、闇の中、火の海となった街を映し出した。明神の夢は濁流と炎の中に消え去った。

心の中で何かが折れる音がした。「一番大切な息子を持っていかれた上に」。

折れた心

くじけそうな心の支えは弘宗が手がけていた缶詰の輸出事業だった。「環境保全に関心が高まっているので、MSCのカツオ製品は国際市場で競争力を持つ」と提案すると、大手商社が関心を示し、宮城県気仙沼市の工場で缶詰を製造して米国に輸出することになった。

「カツオは乱獲が深刻だった。しかも巻き網で取った魚を一本釣りのカツオだと称して売る業者まで出てきた」と当時を振り返る。認証取得には長い時間と多額の資金がかかったが「次世代においていいカツオを残すにはこれしかない」と

思った。米留学を終えて帰国した長男の弘宗が販売ルート拡大に取り組み、新商品のカツオガーリックステーキも開発して事業は順調に伸びていった。

だが、突然の悲劇が明神を襲う。弘宗の妻から「夫が転落事故で亡くなった」と電話で知らされたのは10年10月のことだった。



次世代シーフード(高知)

すり身に込めた不屈の夢

ベトナム産パンガスリミを使ったカニカマの試食会。同級生らを招き妻の和歌子(左端)が天ぷら、サラダなどにアレンジして腕を振るい大好評だった。高知県黒潮町



死のうかとも思ったが、息子が残した孫の顔を見ると、それはできなかった。「命懸けでやってきたMSCのカツオを、神様ももうやめると言っている」。翌年、明神の会社は倒産、廃業した。

だが、2年後、多額の借金を抱え故郷に戻った失意の宏幸に、亡き息子が残したガーリックステーキが転機をもたらす。ベトナムの水産業界団体からステーキに関する問い合わせがあり、ベトナムに渡った宏幸が目にしたのは、アジアの大河、メコン川に沿って建設されたナマズの一種、パンガシウスの巨大な養殖場だった。

「工場長」

新型コロナウイルス禍で、ベトナムへの渡航はままならない。新たに覚えたソフトを使ってオンラインで技術指導を続け、昨年7月、日産14トという規模の生産ラインが整った。送られてきたすり身を日本で加工したカニカマの試作にも成功した。

「単にナマズの切り身を売るだけでなく、付加価値のある製品が輸出できるようになってあげたい。それに日本の水産加工技術が貢献するなら素晴らしいじゃないか」

12月、明神は自宅に同級生ら3人を招いた。天ぷら、サラダ、ピザ、巻きずし。料理上手の妻和歌子(74)が供したメニューのすべてにパンガスリミのカニカマが使われていた。

社会福祉法人を故郷に設立し、障害者や高齢者を雇ってカニカマを生産、販売するという構想を熱く語る明神。彼が「未来の工場長」と呼ぶ孫の祥真(20)が真っ赤なカニカマをほおぼり「これ、めっちゃうまい」と目を輝かせる。カニカマに込めた明神の不屈の夢が、次世代につながることにしている。

ASCはその養殖水産物版だ。欧米を中心に普及が進み、世界各地で認証を取得する漁業者が増え、市場も広がっている。

日本での認知度は低いが、2020年に宮城県気仙沼市の漁業者が大西洋クロマグロ漁で世界初のMSC認証を取得するなど、徐々に広がりを見せている。

ASCは、環境や資源保護に熱心な漁業者を支援できる。環境保全や資源保護に熱心な漁業者を支援できる。

海のエコラベル

乱獲や環境破壊なしに漁獲された水産物だと認める厳密な基準を定め、クリアした製品にエコラベルを付けて売れる。消費者がラベルの付いた製品を選んで買うことで、環境保全や資源保護に熱心な漁業者を支援できる。

これが水産物エコラベルの考えで、MSCのラベルが国際的に最も信頼されている。

写真・藤井保政
〈土曜日に掲載します〉